

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもプラス豊見城教室 4号館		公表日 令和 8年 4月 30日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境 制・ 整 運 備 営	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	4	0	教員教材は事業所で選定したものを使用し、児童の特性や支援目的に応じて適切に活用している。	教材の効果検証を行い、支援目的との整合性をより高めていく必要がある。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	利用状況を踏まえ、必要に応じて柔軟な職員配置を行っている。	今後も利用者の状況に応じた配置体制の維持に努める。
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	定期的なミーティングと振り返りの機会を設け、職員間で課題と改善策を共有している。	改善の取組を継続し、職員一人ひとりの参画意識をさらに高めていく。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	評価表を活用し、保護者や利用児の意見を把握したうえで支援や運営に反映している。	今後も保護者や利用児の声を踏まえた業務改善を継続する。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	定期的なミーティングや意見交換を通じて、現場の声を業務改善に反映している。	今後も職員が意見を発信しやすい環境づくりを継続する。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	毎月開催されるFC(こどもプラスホールディングス)本部主催の研修を受講しているほか、資格取得に向けた研修等に積極的に参加している。	研修内容の共有を徹底し、全職員への均質な学びの機会を確保する。
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	4	0	児童および保護者の状況を丁寧に把握し、個別性を踏まえた支援計画を作成している。	ニーズ把握の精度を高め、支援計画への反映をさらに充実させる。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	支援計画の作成にあたり、関係職員が参画し多角的に検討している。	各職員の専門性をより活かせる体制づくりを進める。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	4	0	訪問先施設の担当者や担任と丁寧に情報共有を行い、施設の方針や環境特性を踏まえたうえで、児童の状況に応じた計画を作成している。	今後も意見交換の機会を重ね、施設との共通理解を深めながら、より一貫性のある支援計画の策定に努める。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	支援計画を職員間で共有し、会議や日々のミーティングを通じて内容を確認することで、計画に沿った一貫性のある支援を実施している。	支援の進捗状況を定期的に振り返り、必要に応じて計画を見直すことで、より実効性の高い支援につなげていく。
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	フォーマルなアセスメントと日々の行動観察を組み合わせて、児童の適応状況を総合的に把握している。	観察記録を定期的に振り返り、アセスメント結果との整合性を高めていく。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	ガイドラインを踏まえつつ、児童の特性や訪問先の状況に応じて柔軟に支援内容を設定している。	計画の進捗を定期的に確認し、必要に応じて見直しを行うことで質の向上を図る。
14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	定期的な会議や情報共有の機会を通じて、計画の意図や具体的な支援内容を職員間で十分に共有している。	支援の実施状況を継続的に確認し、必要に応じて計画を調整することで支援の質を高めていく。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	支援開始前に打合せを行い、支援内容や役割分担を確認することで、計画に沿った一貫性のある支援を実施している。	役割分担や支援目標の再確認を継続し、計画内容をより確実に実践へ反映できる体制を整えていく。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	支援終了後に振り返りを行い、気付いた点や改善案を共有することで、次回の支援に具体的に活かしている。	振り返り内容の記録と整理を継続し、支援計画への反映をより確実なものにしていく。	

	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	4	0	訪問先担当者と意見交換を重ね、施設の理念や支援方針を尊重したうえで連携を図っている。	情報共有を継続し、支援が訪問先の方針と整合しているかを定期的に確認していく。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	4	0	毎回の支援記録を作成し、それを基に職員間で振り返りを行いながら、支援内容の改善につなげている。	記録内容を定期的に分析し、支援計画や実施内容を見直し、支援の質を向上させていく。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	保護者や訪問先と定期的に意向確認やモニタリングを行い、支援計画の妥当性を評価したうえで必要に応じて見直ししている。	収集した意見や情報を整理し、状況の変化に応じた柔軟な計画見直しを継続していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	管理者や児童発達支援管理責任者が会議に参加し、児童の状況を踏まえた適切な情報提供と支援方針の共有を行っている。	会議前の情報共有を充実させ、児童の状況に基づいた具体的な提案につなげていく。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	学校との連携を密に行い、得られた情報を個別支援に反映している。	今後は学校以外の関係機関とも連携の幅を広げ、情報共有の機会を充実させていく。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	就学時には必要に応じて学校と情報共有を行い、支援内容について相互理解を図っている。	移行期の情報交換をより計画的に行い、就学後の支援へ円滑につなげていく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	1	FC（子どもプラスホールディングス）研修や、外部研修に職員を積極的に参加させ、知識やスキルの向上に取り組んでいる。	研修で得た知見を現場に還元し、支援の質向上につなげていく。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	2	当法人の代表代理が参加し、協議会での内容共有を受けている。	得られた情報を現場支援に反映させ、地域連携の視点をより活かしていく。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	日頃から保護者と児童の状況を共有し、活動の様子や発達の変化について継続的に情報交換を行っている。	情報共有の質を高め、より具体的な支援内容の理解につなげていく。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	必要に応じて個別相談や助言を行い、家庭支援につなげている。	家族支援プログラムの体系化が十分とはいえないため、今後は継続的に実施できる体制づくりを進めていく。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	契約時に運営規程や利用者負担等について説明を行い、内容の理解を得られるよう努めている。	契約時の説明に加え、必要に応じて内容を再確認する機会を設け、利用者の安心につなげていく。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4	0	訪問開始時に事業の趣旨や支援目的を説明し、訪問施設側との共通理解を図っている。	説明に加え、意見交換の機会を継続し、より双方向的な連携へと発展させていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	支援計画の作成にあたり、児童および保護者の意向を丁寧に確認し、その意思を尊重した内容となるよう配慮している。	意向確認の質をさらに高め、児童一人ひとりの最善の利益をより的確に反映した計画策定を目指す。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4	0	支援計画を提示しながら具体的な説明を行い、内容への理解と同意を得たうえで支援を開始している。	説明後の意見確認を継続し、保護者の理解度をより高める取組を進めていく。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	0	子育てに関する悩みや相談に応じ、面談等を通じて状況を整理しながら具体的な助言を行っている。	相談支援の質をさらに高めるため、専門的知識の向上と継続的なフォロー体制の充実を図っていく。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	2	昨年度は保護者交流の機会を1回開催し、情報共有や意見交換の場を設けた。	今後は開催回数を増やし、保護者やきょうだいが継続的に交流できる機会の充実を図っていく。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	相談や申入れに対応できる体制を整備し、迅速かつ適切に対応できるよう努めている。	より相談しやすい環境づくりを進め、意見や要望を早期に把握できる体制を強化していく。

	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	毎月のお便りやブログ等を通じて、活動内容や行事予定、連絡事項を継続的に発信している。	情報発信に加え、保護者との双方向のやり取りを充実させ、共有の質を高めていく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	個人情報保護に関するガイドラインに基づき、適切な管理と取扱いを徹底している。	職員への定期的な周知を継続し、情報管理体制の維持・強化に努めていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	児童や保護者の理解度や特性に配慮し、個別のニーズに応じた方法で情報伝達を行っている。	視覚的資料の活用や説明方法の工夫を進め、より分かりやすい情報提供につなげていく。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4	0	訪問支援に加え、訪問先施設からの相談に応じる体制を整え、迅速かつ適切な助言を行っている。	相談内容の共有を継続し、より具体的かつ実践的な助言につなげていく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4	0	カンファレンスを通じて次回支援の方向性や改善点を具体的に検討し、支援の質向上につなげている。	双方の役割を明確にし、より協力的に支援を改善できる体制を整えていく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4	0	支援後に報告書を作成し、それを基に保護者へ支援内容を共有している。	報告内容をより分かりやすく伝える工夫を重ね、保護者との相互理解を深めていく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	個人情報保護に関するガイドラインに基づき、適切な情報管理と取扱いを徹底している。	管理体制の点検を継続し、情報漏えい防止に向けた意識の向上を図っていく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4	0	訪問先施設からの相談に応じ、状況に応じた専門的助言を行いながら信頼関係の構築に努めている。	個別対応に加え、組織的な連携も視野に入れ、より安定した信頼関係の構築を図っていく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	事故防止や緊急時対応等の各種マニュアルを整備し、職員への周知と定期的な訓練を実施している。	マニュアルの定期的な見直しと研修を通じて、実効性を維持し形骸化を防いでいく。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全計画を毎年度更新し、必要に応じて見直しを行うとともに、季節特性を踏まえた訓練を実施している。	計画の実施状況を定期的に確認し、安全管理体制の継続的な向上を図っていく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハット発生時には報告書を作成し、組織内で共有するとともに再発防止策を検討している。	情報共有の迅速化と内容の精度向上を図り、リスクの早期把握と未然防止につなげていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	虐待防止に関する体制を整備し、職員研修の実施や対応手順の共有を通じて予防意識の向上を図っている。	職員が懸念や気付きに早期に対応できる環境を整え、未然防止の取組をさらに強化していく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0	身体拘束を行う場合の基準を組織的に定め、マニュアルを作成し、適切に運用している。	身体拘束を最小限とする方針を徹底し、人権への配慮と説明責任をより明確にしていく。